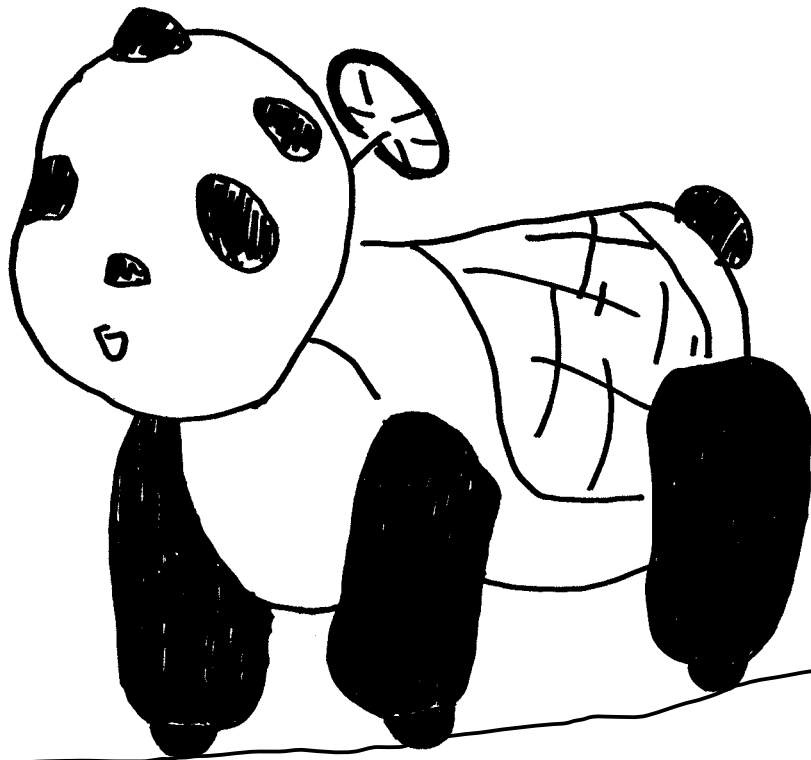
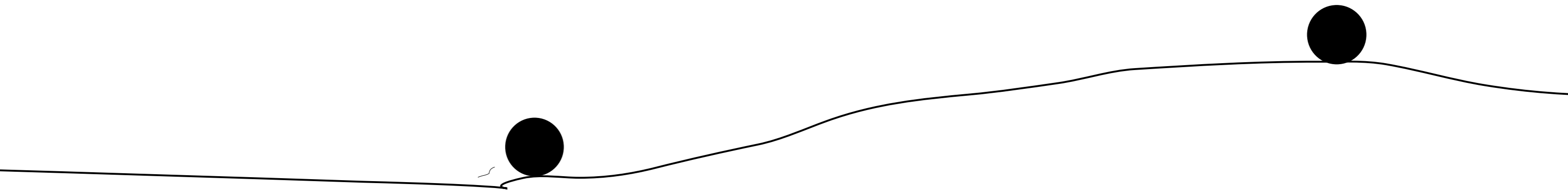


週刊

たまたま、



#12 「のろのろ」



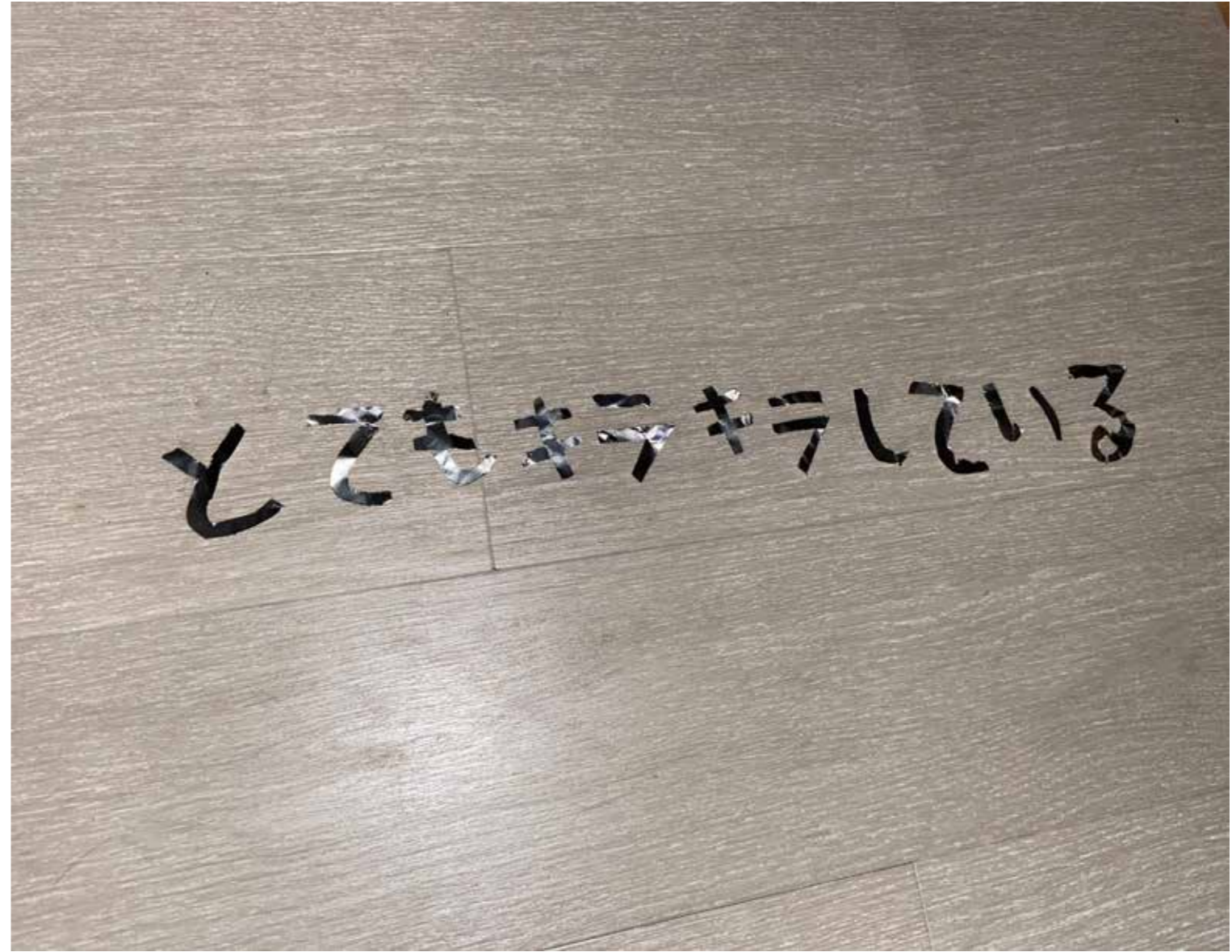
お母さんが先頭で、お姉ちゃんが次で最後がわたし。順番が決まっている。
縦に並んで自転車を漕ぐと、しばらくしてお姉ちゃんが自転車を止めてわたしを待つ。
お母さんはずっと先をいっている。
川の流れよりも早く、自転車を漕いでいる。
わたしがお姉ちゃんに近づくと、お姉ちゃんはペダルに足をかける。
青から赤に信号が変わっていると、わたしとお姉ちゃんはお母さんに近づく。
赤信号はあんまり好きじゃないけど、とても助かる。
わたしはごさいで、8才で、一五歳。
信号が青になった瞬間に、お母さんが踏み込んで、お姉ちゃんが踏み込んで、
わたしがペダルに足を乗せてから踏み込んでいる。

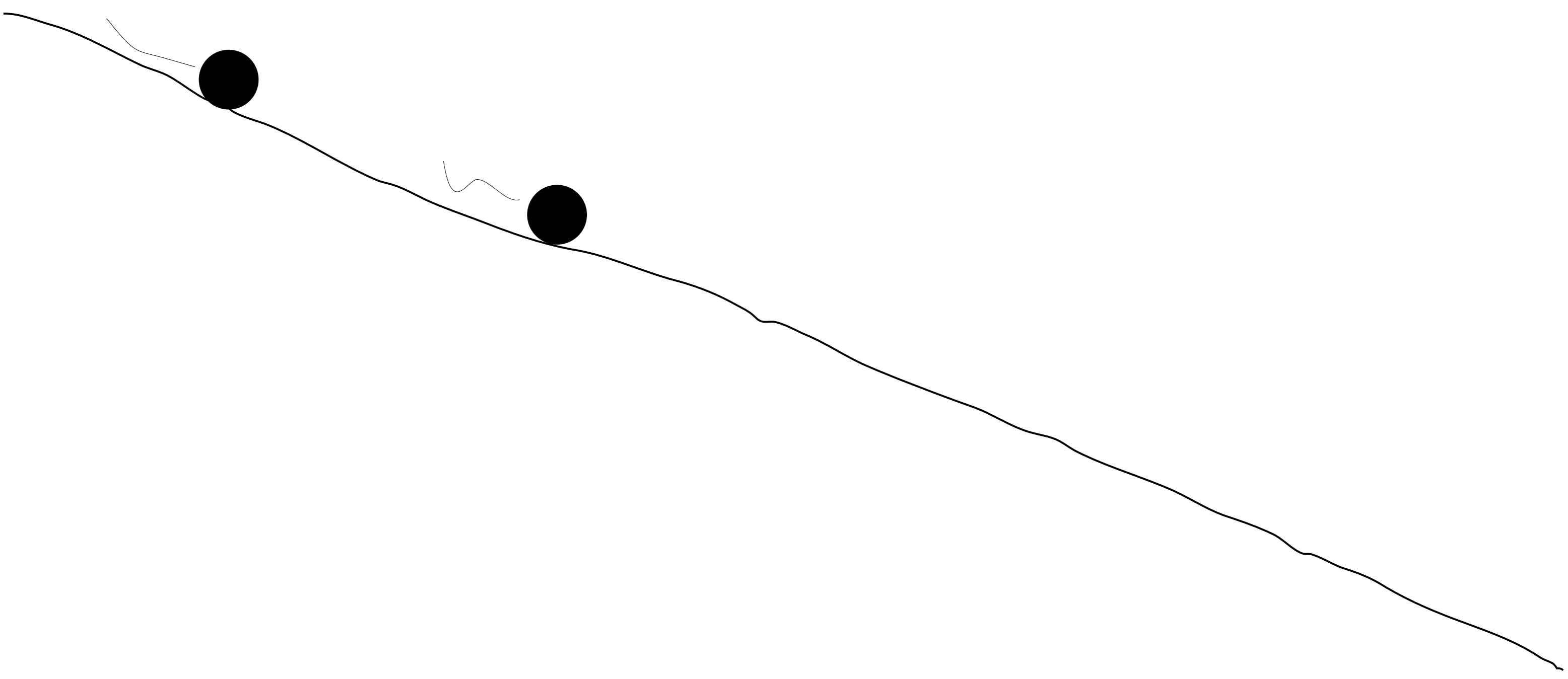
友達が、いち、に、さん、しと並んで、最後がわたし。順番が決まっている。
橋に差し掛かって、立ち漕ぎを始める。
わたしは途中で降りて、自転車を手で押し、歩く。
橋のてっぺんでは、よんばんめの彼女が後ろを振り返り、私を見ている。
てっぺんにつき、わたしは笑い、彼女は少し呆れて笑う。
橋は好きだけど、自転車との相性は悪い。
わたしは14才。
同じ瞬間に両足を離して、自転車に身をまかせれば
街ゆく人に紛れ、遠くにいる友達が見えるようになる。

ばいとのかえりみち。私はひとりで自転車に乗る。
歩いた方が早いくらいの速度でそのまま坂道をのぼり、
信号をぎりぎり、無視せずにわたる。

嘔み砕いた野菜炒めぐちゃぐちゃのリュックの中身向かい側のからのうつわ玄関のまえでドアを開けてまっぴろ中のはいるTシャツ汗だくになる駅のホーム







タイトル 週刊 たまたま、# 12「のろのろ」
参加者 桑原咲羽、川上元哉、下山健太郎
発行日 2020/7/7
発行 東京造形大学 CS-lab
〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556
編集 下山健太郎

